

淡江大學九十學年度碩士班招生考試試題

系別：日本研究所

科目：日文翻譯與作文

准帶項目請打「○」否則打「×」	
計算機	字典
×	×

本試題共 3 頁

P1
本試題雙面印製

一、次の文章を読んで質問に答えなさい。

03月20日 ◇天声人語◇

東京にあるコロンビア大使館のホームページを開く。冒頭に問いかけがある。〈多くのマスメディアは、コロンビアは内戦状態にあると報道している。これは事実だろうか？〉

否、〈内戦ではなく、市民社会に対する戦争である〉というのが大使館の主張だ。政府軍とゲリラの武力対立が激化し、農民は都市へ集団移動しているともいう。矢崎総業現地法人の日本人副社長が誘拐されたコロンビアは、自国が内戦下にあるかどうかについて釈明しなければならないような状況なのだ。

今回の誘拐に関与したと見られているのは、最大の左翼ゲリラ、コロンビア革命軍(FARC)。活動資金の半分を麻薬によって、4割を誘拐の身代金で得ているといわれる。この国では、誘拐は日常茶飯事なのだ。昨年1年間に3700人もが誘拐された。被害者の大半はコロンビア人だが、外国人は格好の標的にされる。

日本人の被害も初めてではない。1991年には東芝社員2人が100日以上捕らわれ、98年にも元山梨県議の農場主が5カ月間解放されなかった。『百年の孤独』で知られるコロンビア出身のノーベル賞作家ガルシア・マルケスは〈コロンビアの歴史は端から端まで暴力が駆けめぐっている〉と書く。

極右組織に父親と弟を殺された18歳の少女は左翼ゲリラになった。「家族を殺されたから。私はここで生きて、死ななくてはならない」(写真家、亀山亮(りょう)氏の報告)。10代少年たちはまた、強盗や殺人など凶悪犯罪の中心にもなるという。殺人やテロ行為にあふれた日常。彼らは殺し屋や麻薬マフィアにあこがれる。12歳の少年は、将来何になりたいかと問われ、答えた。「殺し屋になりてえんだ。おれもおれの家族も一目置かれるようになりてえ」(『暴力の子供たち』朝日選書)

03月19日 ◇天声人語◇

不正が明らかになったり、大きな損失を出したりした大企業のトップにとって、大阪の「株主オンブズマン」は、怖い存在であるに違いない。

代表の森岡孝二・関西大学教授(企業社会論)らが、この組織を旗揚げしたのは5年前。株主代表訴訟という制度を駆使して、企業のあり方に目を光らせる。先日、住友商事の元社長らが、この種の裁判の和解金としては過去最高の4億3000万円を支払うと約束した。この訴えでも原告の株主を支えてきた。

法律のうえでは会社は株主のもの。経営を任された取締役が自らの怠慢などで損を出したら、自ら償うのが筋だ。が、彼らが進んで非を認めることは、まず望めない。そこで、株主が取締役に支払いを求める。それが株主代表訴訟だ。

経営責任をあいまいにしたまま破たんし、その処理に税金も投じられた住宅金融専門会社への怒りが、オンブズマン設立のきっかけだった。株主の視点から点検すると、総会屋への利益供与や不透明な政治献金など、つぎつぎに問題が浮かび上がる。かかわった訴訟は20件に近い。

組織のメンバーは、弁護士や一般株主など100人ほど。とかく内向きになりがちな経営に風穴をあけてきた。住商訴訟では、役員報酬の最高額や平均額などの公表を約束させた。海外では当たり前なのに、日本では多くの企業がかたくなに拒んでいる情報だ。

淡江大學九十學年度碩士班招生考試試題

系別：日本研究所

科目：日文翻譯與作文

准帶項目請打「○」否則打「×」	
計算機	字典
×	×

本試題共 3 頁

P₂

拠点が大阪だから、チェック対象の企業は限られる。「でも、東京だったら問題企業が多すぎて、これだけの仕事ができただろうか」と森岡さん。市民団体の性格が濃い、実は有限会社だ。財団法人にすると、設立に手間も費用もかかるのである。

体面がどうあろうと、おっちょこちよいと思われようと、まず走り出す。関西流のそんな腰の軽さが、企業相手の裁判を戦い抜く武器の一つでもあろうか。

03月18日 ◇天声人語◇

「肉なんか、ずっと食べていないよ。野菜と魚だね。その魚も用心しないと危なくてね」。パリに長年住んでいる日本人の友人夫妻の話だ。

欧州で、家畜の伝染病である口蹄疫(こうていえき)が猛威をふるい、やや沈静化したかに見えた狂牛病騒ぎも再燃している。牛や豚など、蹄(ひづめ)が偶数の偶蹄類がかかるのが口蹄疫。人間には感染しないが、肉質が落ち、牛では乳量も激減する。

狂牛病の牛は、脳がスポンジ状になって、全身がまひする。その肉を食べた人にもうつることがあり、死亡率はきわめて高い。くず肉や骨を粉末にした飼料が、感染源とみられている。どちらも、伝染をくい止めるには殺すしかない。すでに何十万という家畜が、各国で殺されている。

パリの肉屋は開店休業状態。レストランのメニューも、肉料理はぐんと減った。かろうじて安全に思えるのがトリ肉だが、これにも疑惑の目が集まる。危険な動物性飼料が与えられていたのではないか、というわけだ。魚も養殖のマスなどにはやはり動物性飼料が与えられた疑いがあり、消費者に忌避されがちだという。

先日、プロバンス料理の店に出かけたら、肉はいっさい使わず、魚だけ。それはいいのだが、魚の料理に慣れていないから、まずいの何の、と友人の話はぐちっぽくなった。ラグビーの国際大会中止(英)、適当な対策をとらなかったと閣僚が辞任(独)、欧州の肉が入らずシカゴ市場では豚肉が高騰(米)、などと影響は拡大の一途をたどる。

動物性飼料は、家畜を早く安く、大きくするために使われた。効率を上げようと多数の家畜を狭い畜舎に押し込め飼育する。そんな中で、微妙なバランスが一つ崩れると、伝染病が急速に広がり、パニックを引き起こす。人間の利益中心のやり方への、強烈なしっぺ返し。欧州の人びとはいま、それを実感している。

淡江大學九十學年度碩士班招生考試試題

系別：日本研究所

科目：日文翻譯與作文

准帶項目請打「○」否則打「×」	
計算機	字典
×	×

P3.

本試題共 3 頁

質問1. 次の漢字に振り仮名をつけなさい。15%

- ① 日常茶飯事 ② 誘拐 ③ 身代金 ④ 左翼 ⑤ 総会屋
⑥ 政治献金 ⑦ 狂牛病 ⑧ 偶蹄類 ⑨ 忌避 ⑩ 沈静化

質問2. 次の外来語を中国語に訳しなさい。12%

- ① ホームページ ② マスメディア ③ ゲリラ ④ オンブズマン
⑤ スポンジ ⑥ バランス ⑦ ラグビー ⑧ パニック

質問3. 次の日本語を中国語に訳しなさい。25%

- ① 『百年の孤独』で知られるコロンビア出身のノーベル賞作家ガルシア・マルケスは
<コロンビアの歴史は端から端まで暴力が駆けめぐっている>と書く。
- ② 殺人やテロ行為にあふれた日常。彼らは殺し屋や麻薬マフィアにあこがれる。
- ③ 拠点は大阪だから、チェック対象の企業は限られる。「でも、東京だったら問題企業が多すぎて、これだけの仕事ができただろうか」と森岡さん。
- ④ 体面はどうであろうと、おっちょこちょいと思われようと、まず走り出す。関西流のそんな腰の軽さが、企業相手の裁判を戦い抜く武器の一つでもあろうか。
- ⑤ そんな中で、微妙なバランスが一つ崩れると、伝染病が急速に広がり、パニックを引き起こす。人間の利益中心のやり方への、強烈なしっぺ返し。欧州の人々はいま、それを実感している。

質問4. 狂牛病について述べなさい。8%

二. 作文。テーマ「甘え」。40%